

大阪工業大学工学部 正会員 ○清田 雄基
 大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞
 大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成

1. はじめに

現在、日本列島にはきわめて多くの地名が存在している。地名の大部分はその場の住民によって名付けられ、使われ、時代を超えて受け継がれてきた。地形に由来する地名や権力者が意図的につけた地名、当時に制定された制度によって広められた地名などが存在する。しかし、1960年代には「住居表示に関する法律」が施行され、新しい住居表示が実施され始めた。これにともない各地の地名は相次いで消滅してきている。地名の変更には一部の住民から反対運動が発生する位、地名は日頃から人々の慣れ親しんだ存在となっている。地名は言葉によって成り立っているが、単なる符号ではなく、そこには多くの歴史が語られ、民衆の生活や喜びなどの思いが込められている無形の文化財だと考えられている。つまり地名は歴史を探る重要な要素の一つであり、地名を通じて都市の歴史を把握することは、歴史的環境の保全など将来の都市計画を行う上でとても重要であるといえる。

2. 研究の目的と方法

地名とは無形の文化財であり、地域景観を形成する要素の一つとなっている。しかし歴史の変遷から見ると、地名が名付けられた時代の地域景観が失われていたとしても、当時の地名がそのまま残っていれば、失われた有形の景観をある意味でとどめていて、それが復元の手がかりとなる。よって本研究では、移り変わる都市空間に対し「地名」からアプローチすることで、その都市の歴史を読み解く可能性を見出すこととする。さらに地名の由来や起源を抽出し、地形的变化と時代背景との関連性を把握することも目的とする。分析には事象の位置や範囲を示す幾何情報と事象の属性情報をあつかい、重ね合わせて表示し、分析できる機能を有するGIS(Geographic Information System)を積極的に用いることで、地名と都市の変遷を分析・把握する。時代とともに移り変わる都市空間を地名から分析することは一つの指針となると考えられ、今後の都市デザインの方向性を定める上で礎となることを目指している。

3. 地名集日本による分析

日本全国の地名からその歴史をすべて把握することは膨大な作業量となるため、現実的ではない。そこで広域な分析から狭域な対象地の選定を行う必要がある。本研究では地名集日本を使用することとする。地名集日本は、国際連合地名標準化会議の決議に基づき、国土地理院と海上保安庁海洋情報部が、わが国の行政、居住、自然、海底地形等の標準化された自然地名情報を総合的にまとめ、継続的に更新が行われている。また、集録されている自然地名は、国土地理院作成の100万分1国際図及び海上保安庁作成の350万分1国際海図と100万分1海底地形図に記載されている地名約3900件である。集録されている自然地名は、地方自治体が定めた名称が記載され、緯度・経度・メッシュコード・種別などの項目がある。そこで記載されている自然地名を一次メッシュを用いて振り分けることで、自然地名が集中する地域を把握している(図-1)。結果より、東京・大阪・九州に自然地名が集中していることが確認できた。そこで本研究では、日本最古

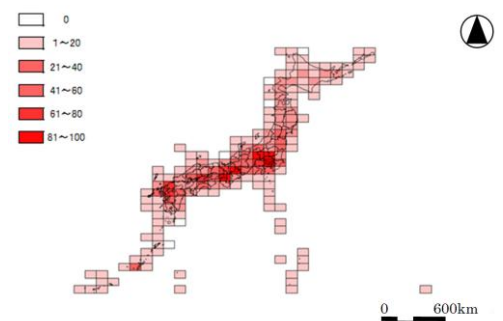


図-1 自然地名の分布

の計画都市である難波宮から1500年にも及ぶ長い歴史を有し、今もなお大都市として発展を続けている大阪を対象地としている．なお大阪は大阪平野の形成や堀川の開削といった地形の形成から豊臣秀吉の大坂城築城や市域拡張にいたる都市の歴史を把握することができ、対象地として相応しい都市である．

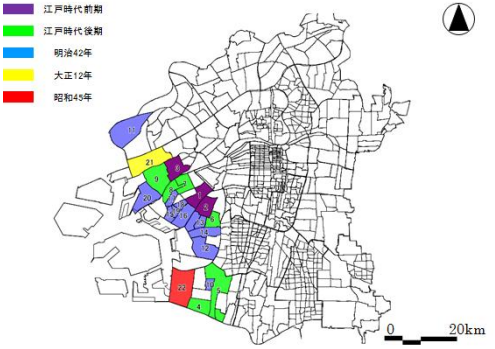
4. 地名の分析と変遷の把握

地名より大阪市の歴史を読み解くため、すでに消滅した地名と現存する大阪市の地名を文献調査により抽出する．地名には名称が付けられた由来だけでなく、時代と場という時空間情報を持っている．本研究では、これらの情報を一つのデータベースに蓄積し、管理・閲覧できるシステムを構築する必要がある．そこで、文献調査により明確にした大阪市の地名の由来・起源・地区・時代を、項目ごとの表示や検索の機能に優れるAccessを用いて、データベースの構築を行っている．

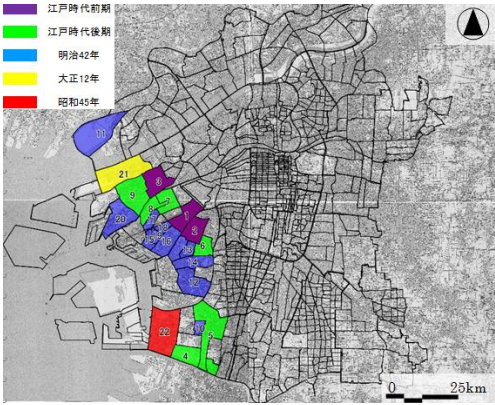
大阪における地名の由来から起源を把握したところ、自然地名や文化地名、さらに複数の要素が混ざり合った地名も数多く存在した．由来が明確になっている地名は、地域の歴史や伝統・文化を象徴的に表しているものが多い．本研究では大阪市全体の地名を起源ごとに分類している．その結果、大阪市には地形を起源としている地名が最も多く存在していることがわかった．そこで、地形を起源とする地名をもとに大阪市の地形的变化や歴史的背景を読み解くことにした．ここでは、GIS を積極的に活用し、地名の変遷を把握した．具体的な方法として、大阪市の地形を表す特徴的な起源である「新田開発」に着目し、江戸時代から現代まで、時代別に地名が存在している場所をトレースしていくことで、地名が誕生した時代と地形的变化を把握している（図－2）．くわえて現代空間上に定位している旧版地図と重ね合わせることで、地形的变化の中でも新田開発による大阪市の拡張を視覚的に把握している（図－3）．しかし、新田開発が由来となっている地名でも現在では使われなくなっているものも多く存在し、明治の市制以降の地名に「新田」は付けられなくなる．ここでは、特徴的なものとして新田開発によって誕生した地名が現在まで受け継がれているものを抽出した（表－1）．また本研究では、大阪市の地形を表す起源として他に「堀川」と「河川」についても同様の分析を行っている．

5. おわりに

本研究では、全国の都市の中から大阪市の地名に着目し、地名が誕生する起源を由来から読み取り、GIS を用いることで大阪市の地形的变化・歴史的背景を把握した．今回、地名の由来が明確でないものは除外し、地形を表す自然地名に範囲を限定して地図上に展開した．それらの起源を用いることで大阪市の歴史を読み解くことができた．しかし実際には地形を表す起源はさまざまであり、本研究で読み取ることができた大阪市の歴史は一部にすぎない．今後の展開として、大阪市には自然地名だけでなく文化地名も多く存在しているため、今後は対象とする地名を拡大することで、より詳細な変化を把握する必要がある．



図－2 新田開発



図－3 新田開発 昭和45年

表－1 地名の変遷

ID	江戸前期	江戸後期	明治42年	大正12年	昭和4年	昭和45年	現代
1	市岡新田	市岡新田	市岡	市岡	市岡	市岡	市岡
2	泉尾新田	泉尾新田	泉尾	泉尾	泉尾	泉尾	泉尾
3	春日出新田	春日出新田	春日出	春日出	春日出	春日出	春日出
4		北島新田	北島	北島	北島	北島	北島
5		加賀屋新田	加賀屋	加賀屋	加賀屋	加賀屋	加賀屋
6		炭屋新田	千鳥	千鳥	千鳥	千鳥	千鳥
7		木屋新田	池田町	木屋町	木屋町	木屋町	木屋町
8		石田新田	石田	石田	石田	石田	石田
9		島屋新田	島屋	島屋	島屋	島屋	島屋